

1 ch FFTに2 chを追加する手順書

Ver.1

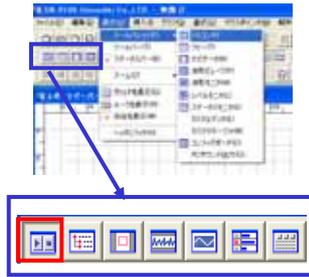
本手順書の内容

1. Repolyzer(XN-8100)の起動
2. ORFファイルの選択
3. コンフィグボード(解析条件)の設定
 1. 校正
 2. 周波数レンジ設定
 3. 周波数分解能(ライン数)の設定
 4. 平均化の設定
4. グラフ表示
5. ツールパレット表示
 1. 波形ビューア(オプション XN-0850)
 2. ステータスマニタ
6. 計測
7. プロジェクトの保存

1. Repolyzer(XN-8100)の起動及びリモコンパレット表示



デスクトップ上の左のアイコンをダブルクリックして、Repolyzer (XN-8100)を起動してください。



リモコンパレットツールボタン

リモコンパレット(下図)の表示

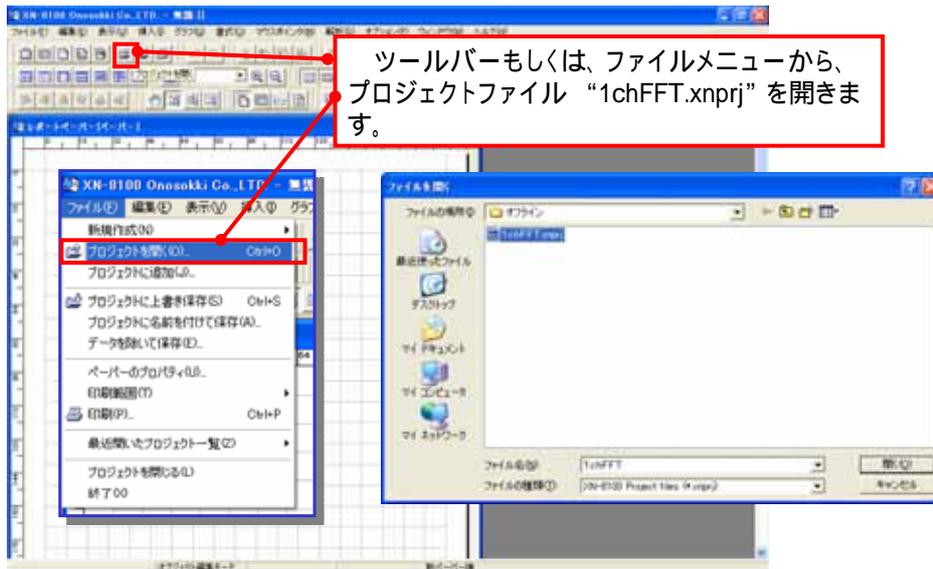
左図のメニューまたは、ツールボタンで表示できます。



リモコンパレット



2. 1chプロジェクトを開く



ツールバーもしくは、ファイルメニューから、プロジェクトファイル “1chFFT.xnprj” を開きます。



2.1chプロジェクトを開く : プロジェクトの確認

このような画面になったでしょうか?

Repolyzer

2.1chプロジェクトを開く : ORFファイルの選択

リモコンパレット

リモコンパレットの FileReadボタンを押す

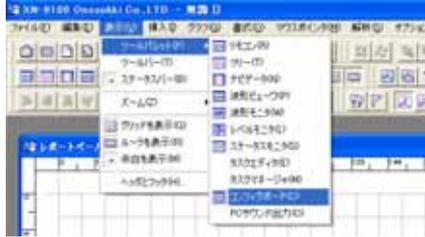
FileReadボタンの右側の細ボタンを押して、ファイル選択ダイアログを開く

“デモ信号. ORF”を選択する。

注: “Repolyzerサンプルデータ”フォルダは、RepolyzerインストールCDから、Repolyzerをお使いになるPCにコピーしておいて下さい。

Repolyzer

3. コンフィグボード(解析条件)の設定



コンフィグボードとチャンネルパレット
(下図)の表示

左図のメニューまたは、ツールボタ
ンで、表示できます。



コンフィグボードツールボタン



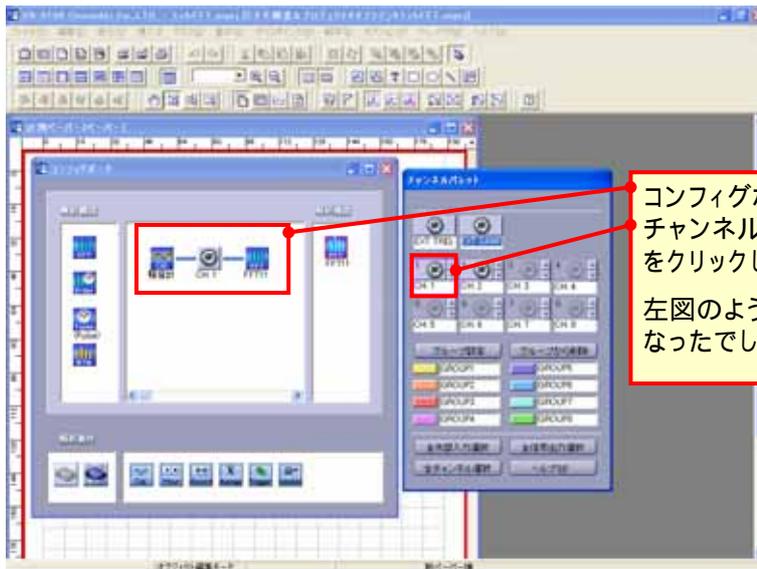
コンフィグボード



チャンネルパレット



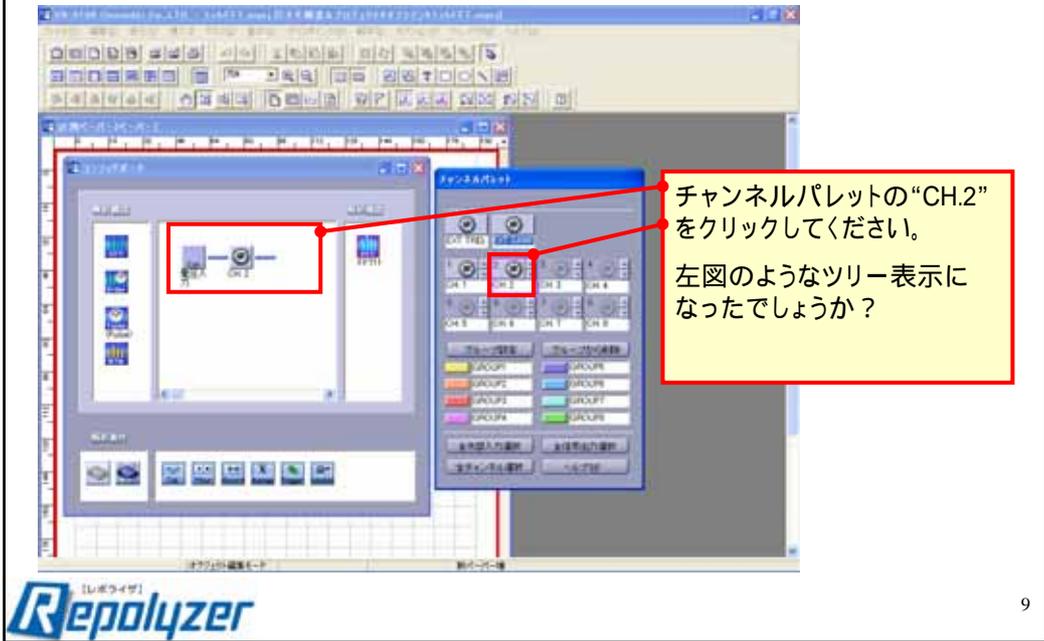
3. コンフィグボード(解析条件)の設定 : 設定の確認



コンフィグボードを開いて、
チャンネルパレットの“CH.1”
をクリックしてください。
左図のようなツリー表示に
なったでしょうか？



3. コンフィグボード(解析条件)の設定 :チャンネルを追加

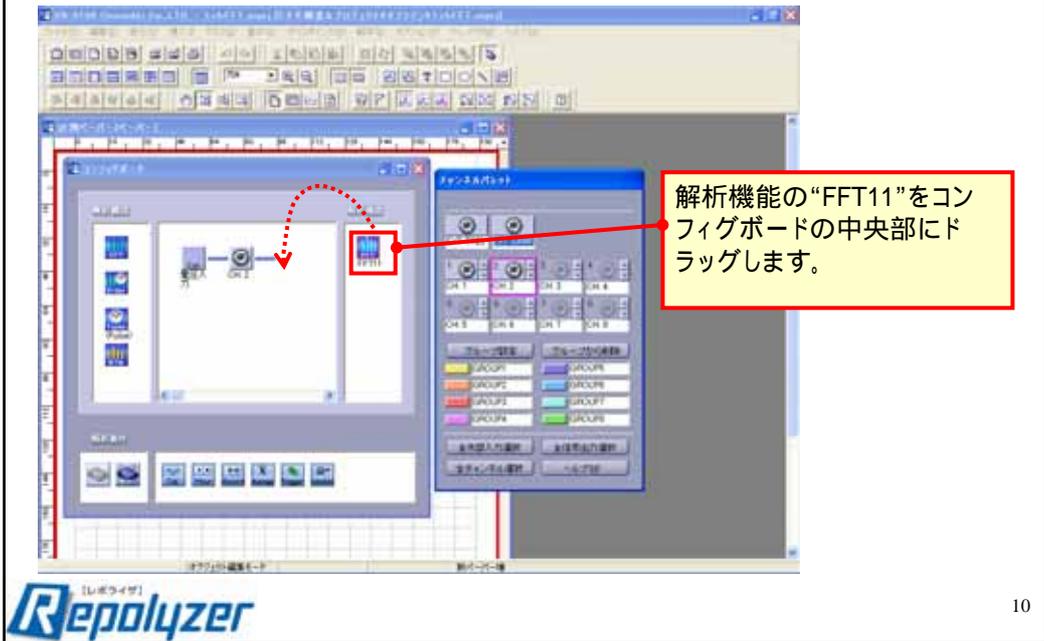


チャンネルパレットの“CH.2”をクリックしてください。
左図のようなツリー表示になったでしょうか？

Repolyzer

9

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 :チャンネルを追加

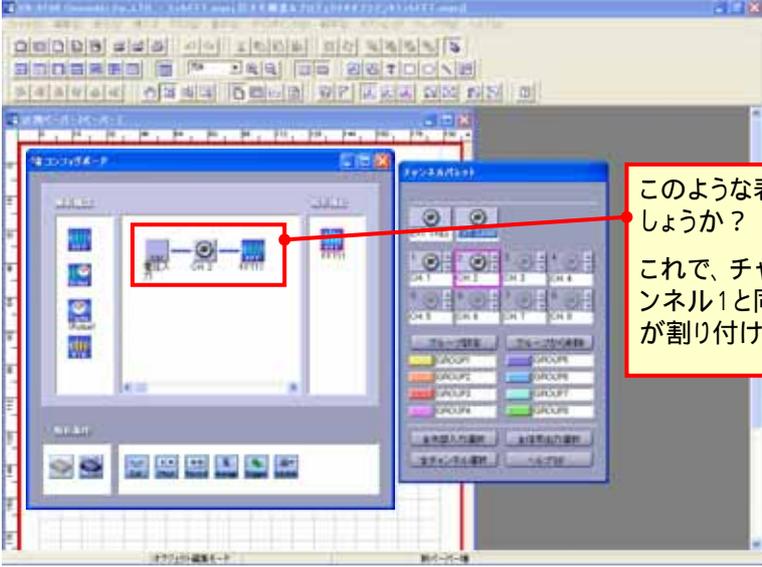


解析機能の“FFT11”をコンフィグボードの中央部にドラッグします。

Repolyzer

10

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 :チャンネルを追加

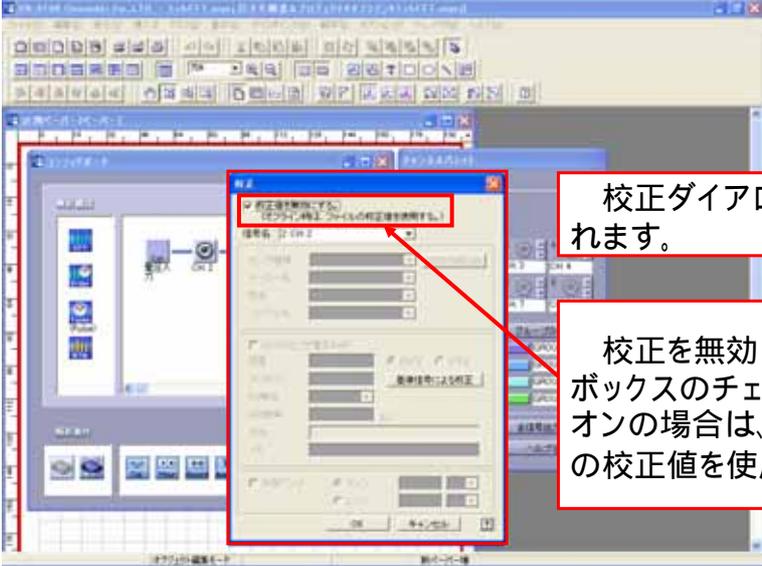


The screenshot shows the Repolyzer software interface. A 'チャンネル追加' (Add Channel) dialog box is open, showing a configuration for a new channel. A red box highlights the 'FFT解析' (FFT Analysis) option, which is checked. A red arrow points from this box to a yellow callout box on the right.

このような表示になったでしょうか？
これで、チャンネル2に、チャンネル1と同じFFT解析機能が割り付けられました。

11

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 :ch2の校正



The screenshot shows the Repolyzer software interface with the '校正' (Calibration) dialog box open for channel 2. A red box highlights the '校正を無効にする' (Disable calibration) checkbox, which is currently checked. A red arrow points from this box to a yellow callout box on the right.

校正ダイアログが表示されます。

校正を無効にするチェックボックスのチェックをオフする。オンの場合は、ORFファイルの校正値を使用します。

12

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 : ch2の校正

DBから読み込みボタンを押すと、下記のデータベース表示になります。クリックして選択して、データを読み込むことができます。

12番目のLA-1210を選択して、**読み込み**をクリックして下さいデータベースが表示されない場合は、デフォルトに戻すボタンをクリックして下さい。

13

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 : ch2の校正

Calアイコンが色が付いて、下に騒音計と表示されます。

14

3. コンフィグボード(解析条件)の設定 :設定の確認

チャンネルパレットで、ch1とch2を選択して、コンフィグボードにch1とch2のツリーを表示させます。

まず、チャンネルパレットの“CH.1”をクリックします。

次に、キーボードの“Shift”シフトキーを押したまま、チャンネルパレットの“CH.2”をクリックします。

左のような表示になったでしょうか？

コンフィグボードを閉じてください。

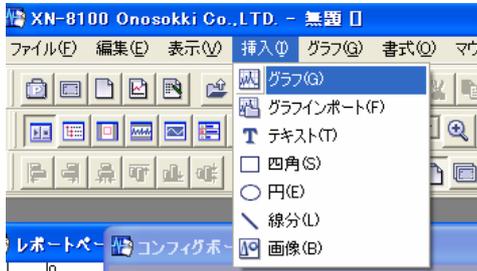
15

4. グラフ表示

グラフを追加します。

16

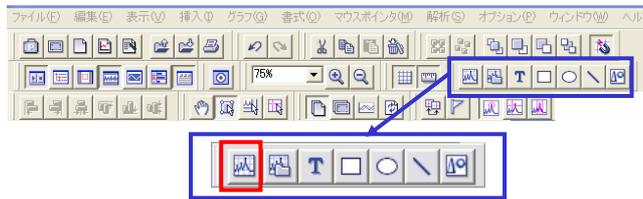
4. グラフ表示



グラフの表示は、レポートペーパーに、グラフオブジェクトを配置する事で実現します。

左図のメニューまたは、ツールボタンで表示できます。

また、グラフ以外の四角や、画像もオブジェクトとして、レポートペーパーに配置できます。

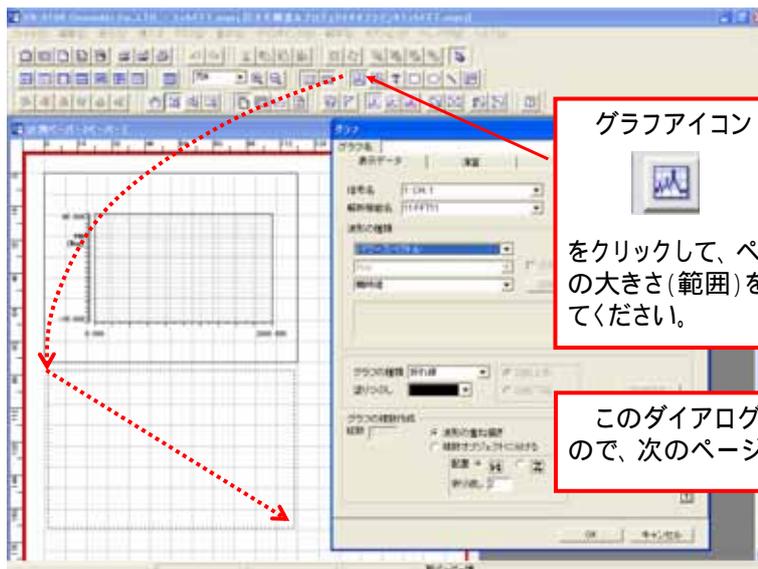


オブジェクト挿入ツールボタン

(左から、グラフ、ファイルデータ、テキスト、四角、円、線分、画像)



4. グラフ表示



グラフアイコン



をクリックして、ペーパー上でグラフの大きさ(範囲)をドラッグで指定してください。

このダイアログが表示されるので、次のページの様に設定。



4. グラフ表示

信号名で、“2:CH.2”を選びます。

波形の種類は、**パワースペクトル 瞬時値**を選択します。

グラフの種類は、デフォルト(折れ線)とします。

OKボタンをクリックします。

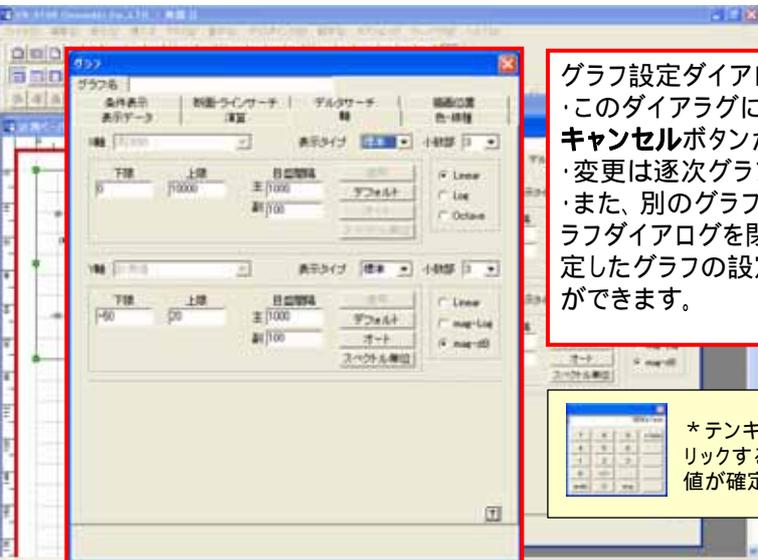
4. グラフ表示

グラフを左クリックして選択します。左の図のように、グラフの周囲が緑色の四角で囲まれます。

選択したグラフ上で、右クリックし、ポップアップメニューから**グラフの設定**を選択します。

* グラフをダブルクリックしても開くことができません。ただし、オブジェクトを配置したり移動したりできるオブジェクト編集モードの場合。

4. グラフ表示



グラフ設定ダイアログ

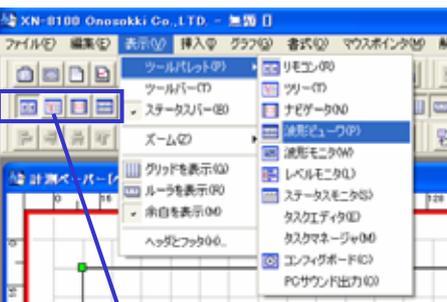
- ・このダイアログには、OKおよび**キャンセル**ボタンがありません。
- ・変更は逐次グラフに反映されます。
- ・また、別のグラフを選択すると、グラフダイアログを閉じることなく、指定したグラフの設定を変更することができます。

*テンキーは、別の項目をクリックするか、適用ボタンで数値が確定します。



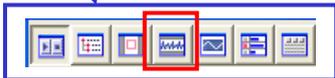
21

5. ツールパレット表示 : 波形ビューワ



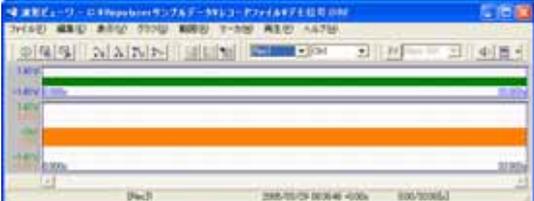
波形ビューワ (下図) の表示

左図のメニューまたは、ツールボタンで表示できます。



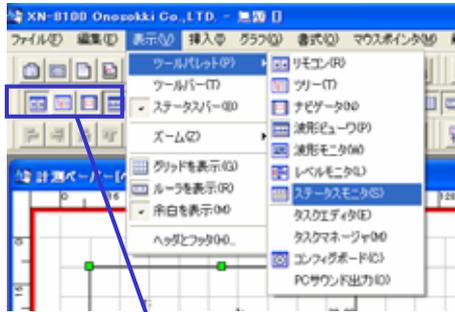
波形ビューワツールボタン

波形ビューワ(XN-0850 オプション)




22

5. ツールパレット表示 : ステータスマニタ



ステータスマニタツールボタン

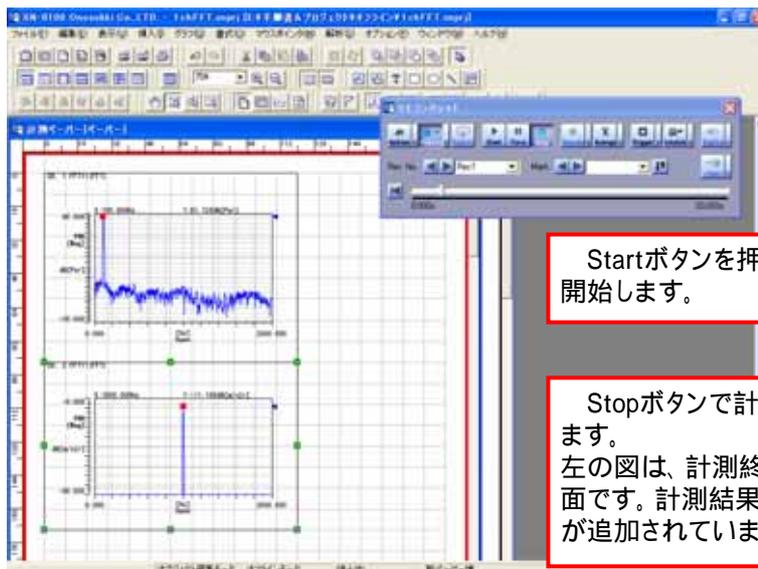
ステータスマニタ(下図)の表示
左図のメニューまたは、ツールボタンで
表示できます。



ステータスマニタ



6. 計測

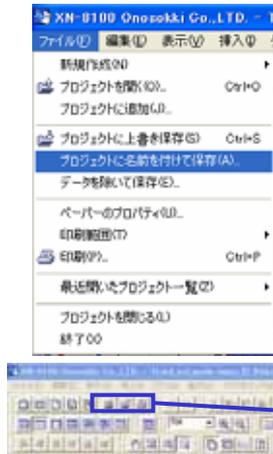


Startボタンを押して計測を
開始します。

Stopボタンで計測を終了し
ます。
左の図は、計測終了後の画
面です。計測結果のペー
パが追加されています。



7. プロジェクトへの保存



測定条件、レポートペーパーレイアウト、データを一括してプロジェクト(*.xnprj)に保存が可能です。

左図のメニューまたは、下図ツールボタンでプロジェクトの保存できます。



プロジェクト保存
ツールボタン